

ISBN978-4-944014-31-6
 C3010 ¥1364E
 定価 1,500円
 (本体 1,364円+税 10%)



9784944014316



1923010013640

§5. Gott.

Religiöses Bedürfnis ist Lebensbedürfnis
 ... Lebensbedürfnis ist ...
 ... Leben in Freiheit ...
 ... Religion ist ...
 ... höchsten Ideale ...
 ... Ideale ...
 ... Ideale ...
 ... höchsten Ideale ...

Religion ist ...
 ... Religiöses Streben ...
 ... höchsten Ideale ...
 ... Gott ...
 ... Bedürfnisse ...
 ... Inhalt ...
 ... Ideale ...
 ... Gott ...

西田幾多郎未公開ノート類研究資料化

報告 5

2021

西田幾多郎記念哲学館

西田幾多郎 未公開ノート類 研究資料化

報告 5

2021

善の形式

Good ... 善の形式 ...
 ... good conduct ...
 ... form ...
 ... content ...
 ... logical investigation ...

西田幾多郎記念哲学館

西田幾多郎
未公開ノート類
研究資料化

報告 5

2021

i	はじめに 浅見 洋 (石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授)
---	---

1	写真—思索ノート・読書ノート・他—
---	-------------------

9 第一部 翻刻の経過

11	2021年度研究資料化事業の経緯 浅見 洋 (石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授)
15	2021年度の一次翻刻作業について 中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
18	2021年度の二次翻刻作業について 中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
21	報告資料

31 第二部 寄稿

33	京都学派の哲学と超限集合論 林 晋 (京都大学名誉教授)
37	付録：G. カントル論文読書ノート (F-07,11,20) の調書 中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
40	翻刻成果から先行研究へ —西田研究の記憶、あるいは郷愁— 招 仕謙 (京都大学大学院文学研究科思想文化専攻日本哲学史専修博士後期課程)
42	2021年度の一次翻刻作業のとりまとめ役を務めて 山田 雄介 (金沢大学人間社会学域人文学類)
44	骨清窟のインゼル文庫～西田幾多郎旧蔵本(3) 高橋 麻帆 (金沢工業大学非常勤講師／古書肆)

51 第三部 翻刻

53 翻刻「印度哲学 村上講師」(A04) (承前)
森 雅秀 (金沢大学)

81 「Gedanken」思索ノート (C04) について
中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)

86 凡例

88 翻刻本文「Gedanken」思索ノート (C04)

120 あとがき

122 執筆者一覧

はじめに

本研究事業の5年を振り返る — 生誕150周年と新型コロナウイルス —

浅見 洋

(石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授)

本事業に本格的に着手したのは2017年度からであり、18年3月に一冊目を刊行した事業『報告』も今回で5冊目になる。振り返ると、この5年間、さまざまなことがあった。哲学館としては2018年に「西田記念館・哲学館開館50年」、2020年は「西田幾多郎生誕150周年」、そして2022年には石川県哲学館開館20周年を迎えた。そうした歴史的な節目を意識し、それらを冠に付けながらさまざまな事業を実施してきた。

1968年11月16日の西田記念館開館の来賓として谷川徹三、西谷啓治、西田静子氏が来賓として招かれ、落成式は宇ノ気小学校体育館で行われた。建設発起人名簿には天野貞祐、阿部正雄、金子武蔵、滝沢克己、務台理作などの学者、政治家、経済人、親族など、錚々たる人々140人余りの名が連ねられているが、何より驚くのは建設費の内訳である。建設費22,000,000円の約38%（約8,000,000円）が寄付金であった。寄付者は旧宇ノ気町の住民をはじめ、石川県内、全国に及んでいる。現在の石川県西田記念哲学館の礎には、50年以上も前の人々の西田幾多郎と西田哲学に対する敬慕と親しみがあったことを忘れてはならないと思う。

本事業のこれまでの大きな成果である『西田幾多郎全集 別巻』（岩波書店）の刊行（2020年9月）、未公開ノート50冊のデジタル・アーカイブ化（2021年3月）の原動力の一つは西田生誕150周年の記念としてそれらを実現したいという思いであった。

『報告4（2020）』にも書いたが、岩波書店に別巻の原稿をメール添付で入稿したのが2020年1月中旬であり、それとほぼ時を同じくして（1月15日）、日本国内最初の新型コロナウイルス感染症患者の確定診断がなされ、翌日未明には世界保健機関（WHO）に症例の発生が通告された。その10日後（1月25日）には西田幾多郎・鈴木大拙生誕150年キックオフと銘打って、「金沢ふるさと偉人館」で鈴木大拙館・石川県西田幾多郎記念哲学館「第2回合同学習会」を開催した。その頃はまだ予想もなかったCOVID19の感染の急拡大によって、2020年4月16日に石川県内にも緊急事態宣言が発令され、本館も休館、150周年記念と銘打って準備していたイベントも軒並

み中止に追い込まれた。その後も感染の波は何度か繰り返され、イベントの中止や延期と来館者の減少は続いた。しかし、本研究資料化事業の翻刻や資料分析に関してはほとんど影響がなく、本館における資料修復や翻刻は途切れることなく続き、私たちの資料情報学の活用能力はむしろ高まったとさえ言い得る。

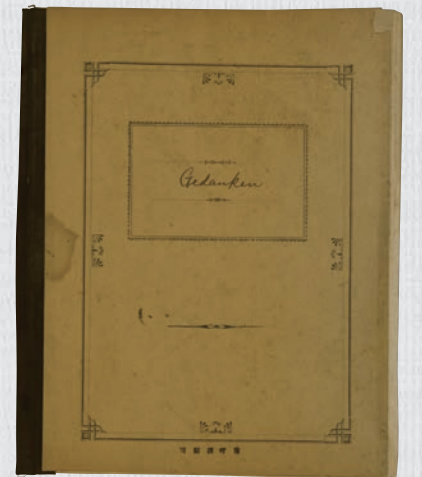
また、2020年には『全集 別巻』だけではなく、150年ないしは150周年記念というキャッチコピーを付けて、西田幾多郎、西田哲学関係の書籍の出版が相次いだ。国立情報学研究所の図書検索システム(CiNii Books)で出版年「2020年」、タイトルに「西田幾多郎」を含む図書を検索すると11件、「西田哲学」を含む図書は7件ヒットする(2022年2月19日時点)。我々の『全集 別巻』は新資料の公開であるが、田中裕編『西田幾多郎講演集』岩波文庫、藤田正勝編『西田幾多郎書簡集』岩波文庫、小林敏明編『西田幾多郎』ちくま学芸文庫のような読み応えのあるアンソロジーが出版された。また、氣多雅子『西田幾多郎生成する論理：生死(しょうじ)をめぐる哲学』慶応大学出版会、田中久文『西田幾多郎』作品社、鈴木貞美『歴史と生命：西田幾多郎の苦悩』作品社は、著者それぞれの研究の集大成とも言うべき質の高い西田論である。さらに、藤田正勝『人間・西田幾多郎：未完の哲学』岩波書店、黒崎宏編・解説『「西田哲学」演習：ハイデガー『存在と時間』を横に見ながら』春秋社、大熊玄著『善とは何か：西田幾多郎『善の研究』講義』新泉社は、新たな西田幾多郎の伝記、評伝、西田研究の格好の入門書として、今後も読み継がれていくであろう。

そのように西田幾多郎生誕150周年は2010年の『『善の研究』刊行100周年』と並んで、21世紀における西田哲学研究の興隆年となった。藤田正勝編『『善の研究』の百年—世界から／せかいへ』京都大学学術出版会が2011年11月に刊行されたように、2021年10月には哲学会の年報『哲学雑誌』第135巻第808号が「世界哲学の中の西田幾多郎」をテーマに編まれている。また、当該年には西平直『西田幾多郎と双面性：東洋哲学序説』ぷねうま書房、板橋勇仁『こわばる身体がほどけるとき：西田幾多郎『善の研究』を読み直す』現代書館なども刊行されており、生誕150周年を契機とした西田哲学への関心は現在も続いているように思う。

そして、哲学館が開館20周年を迎えた現在、感染力が強い新型コロナウイルスのオミクロン株によって日本国内では感染の第六波が到来してはいるが、私たちの事業は弛むことなく、淡々と続いている。館では20周年記念として、2016年に解体された西田幾多郎旧邸の部材を活用して、移動式の展示ケースを造る予定である。研究資料化と資料の活用、それらが博物館である本館の20周年記念のメインテーマである。

写真

思索ノート・読書ノート・他



「Gedanken」思索ノート(C04) 表紙

Doch im Erstarren such' ich nicht mein Heil,
 Das Schandern ist der Menschheit bestes Theil;
 Wie auch die Welt ihm das Gefühl vertheure,
 Ergriffen, fühlt er tief das Ungerne.
 Faust 2^{ter} Theil, fünftes Gesang

Aesthetische Erklärung.

心理学者 = 云ハセハ Qualität des Gefühls, Lust und Unlust, = 種デアルト云フガ Gefühl, 性質, 其様 = 單純ナル者デ+イ 心理学者ハ Gefühl, 変化, 塔之ニ伴フ Erkenntnisニ帰スル様デアルガ Vorstellungen, Gefühl, 変化サスル Bedingung = 違+イガ Gefühl, Gefühlト独立, 領分ヲ有スルデアル Gefühl = 無限, 変化アルヲ誰モ許ス所デ 此, 変化ハ Vorstellungenニ由ツテ起サルトシテモ 変化スル者ハ Erkenntnisデハナクテ Gefühl 自身デアル Gefühlヲ主トシテ見ルハ Vorstellungenニシテ Symbolト云フテモヨロシイ 普通ノ知識ハ objectivデアルカ故ニ Vorstellungenカ主トナリテ Gefühlハ 副トナリテ居ルカ Phantasieニテハ Gefühlカ主トナリテ Vorstellungenカ之ヲ表ハス 材料 = 過キ+イ

我等カ此ノ宇宙万象ニ對スル知識的ニ之ヲ理解スルバカリテハナク之ニ就イテ無限ノ情緒ヲ發スル 之ヲ以テ Aesthetische Erklärung der Weltト云フ 即チ Phantasieヲ以テ宇宙ヲ解釈スルデアル

Beiträge zur Begründung der trans-
 finiten Mengenlehre
 von Georg Cantor.

§1.
 Der Mächtigkeitssatz von Cantor
 Satz 1. Jede Menge M hat eine
 Potenzmenge $\mathcal{P}(M)$, die
 mächtiger ist als M .
 Beweis. Sei f eine Abbildung von M nach $\mathcal{P}(M)$.
 Betrachte die Menge $N = \{x \in M \mid x \notin f(x)\}$.
 Dann ist $N \in \mathcal{P}(M)$, aber es gibt kein $x \in M$
 mit $f(x) = N$.
 Folglich ist $\mathcal{P}(M)$ nicht mit M über-
 deckbar.
 Die Mächtigkeit von $\mathcal{P}(M)$ ist also
 größer als die von M .
 Die Elemente von $\mathcal{P}(M)$ sind also die
 Teilmengen von M .
 Teil oder Teilmenge einer Menge M

ノート以外の資料(F-11) カントル論文読書ノート冒頭

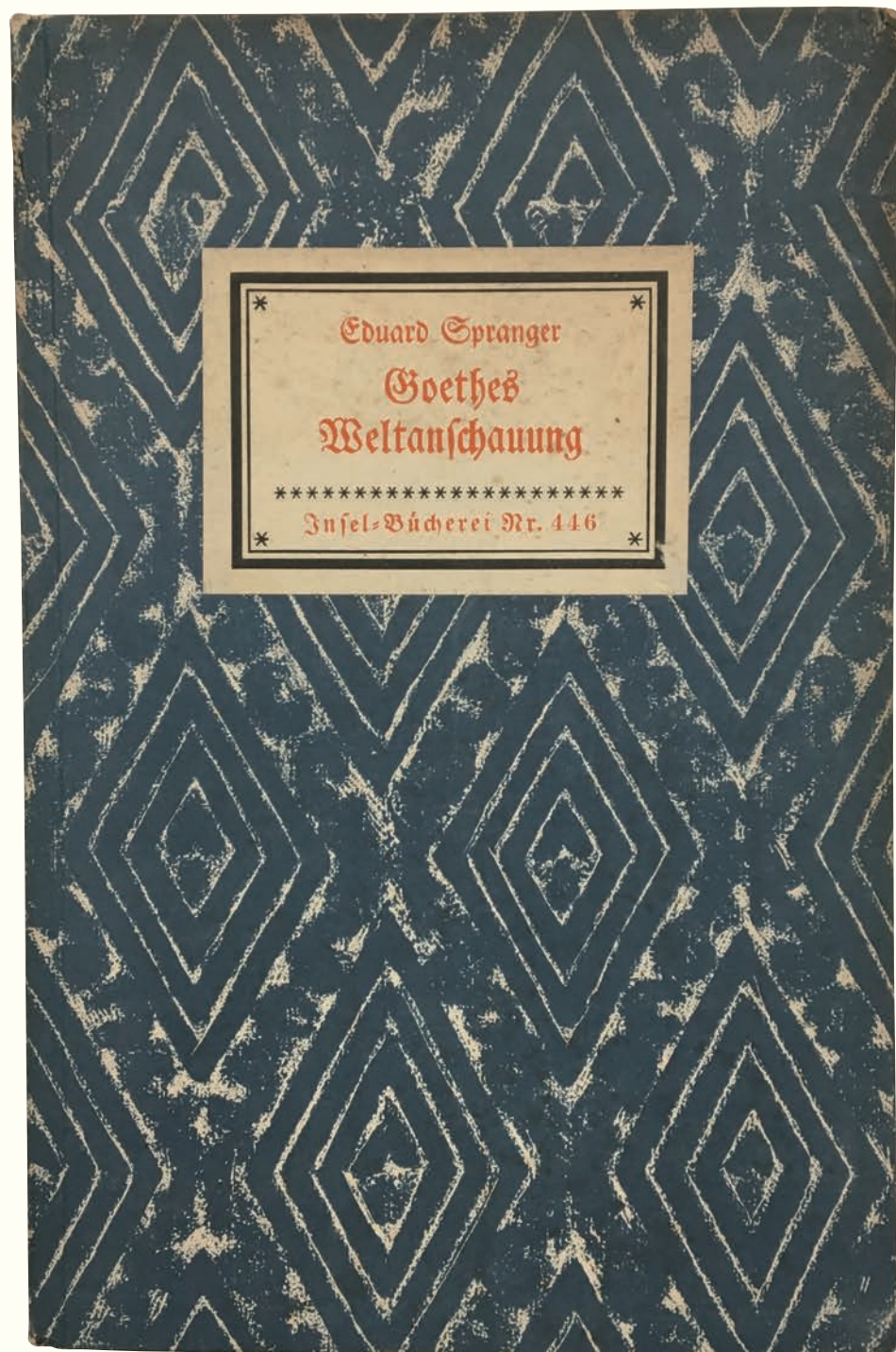
59

No. 1
 Damit wäre der Beweis der Ähnlich-
 keit von X und M erbracht, und es ist
 daher

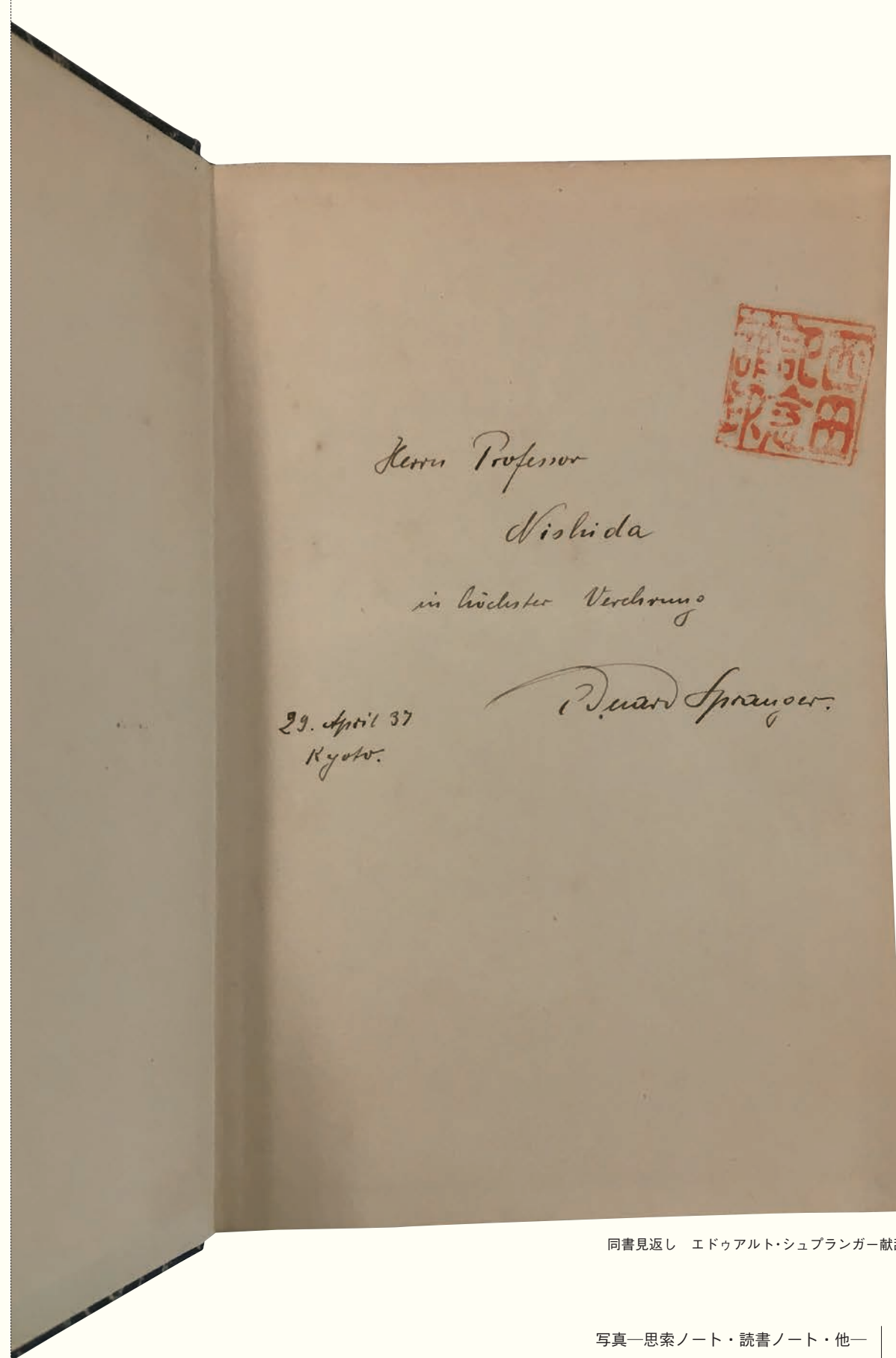
$$M = \emptyset$$

Walle, März 1895

ノート以外の資料(F-20) カントル論文読書ノート末尾



西田蔵『ゲーテの世界観』(インゼル文庫)
高橋麻帆「骨清窟のインゼル文庫—西田幾多郎旧蔵本(3)」 44頁



同書見返し エドゥアルト・シュプランガー 献辞